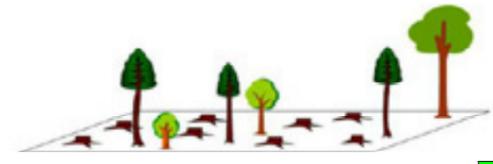


木曾ヒノキ林の成立過程

中部森林管理局HPより



江戸時代以前は、ヒノキ、サワラ等の針葉樹が6~7割、カンバ類、ナラ類等の広葉樹が3~4割の原生的な天然林が分布していた。



江戸時代に大火の復旧や築城ブームにより、ヒノキなど数本の親木を残して他は伐採するという強度な伐採を行う。



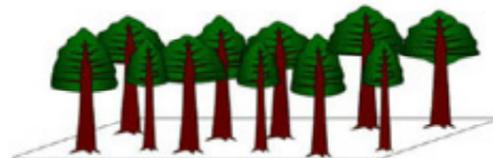
天然更新でヒノキなどの木曾五木や広葉樹などが生育した。



幕府による厳しい木曾五木の禁伐対策により、木曾ヒノキは守られる一方、その他の木は地元民により伐採され利用された。



明治、大正、昭和の初期にかけて、利用できるヒノキ大径材等を抜き伐り（択伐）した。



現在の一斉林型の木曾ヒノキ天然林が形成される。

現在の木曾ヒノキ林は、いわゆる原生林（ほとんど人手が加えられたことのない自然のままの森林、それらが一切無いものを原始林）ではなく、大規模伐採と天然更新、その後の地元民による広葉樹の伐採という整備などを通じて人為とともに形成されてきた、いわば天然生二次林ということがいえます。

中部森林管理局 東濃森林管理署

木曾の五木の話

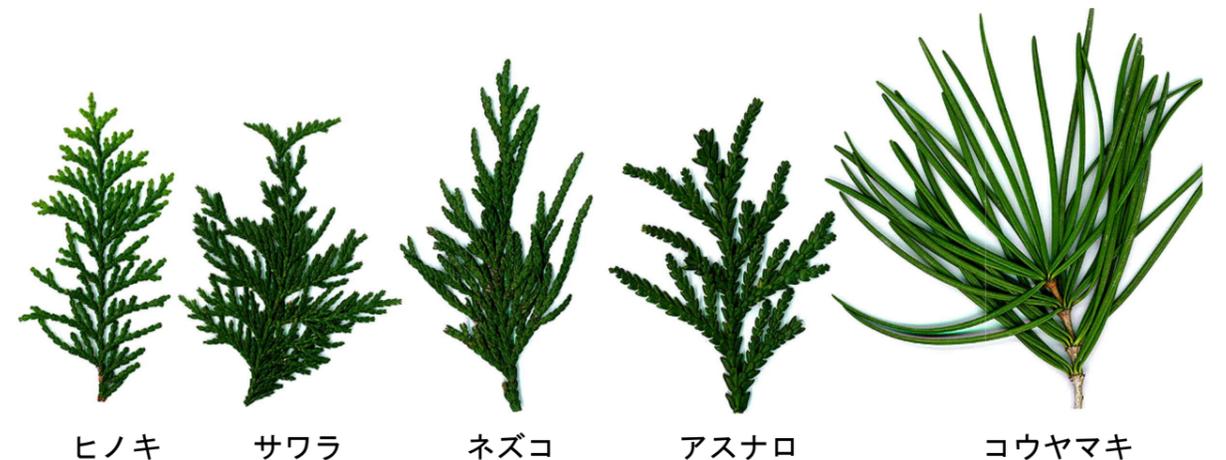
ヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキ・ネズコの5つの樹木を「木曾五木」と呼んでいます。由来については、次のような歴史があります。

元和元年(西暦1615年)に木曾33箇村と裏木曾3箇村(川上村・付知村・加子母村)が、尾張徳川藩領となり、各地の城郭・城下町の建築用材として大量に木が伐採され、寛文5年(1665年)には木が切り尽され荒廃した山が目立ってきたため、尾張藩による林政改革が行われました。

このとき木材の伐採はもちろん、住民の立ち入りも禁止する「留山」「樂山」が設けられ、宝永5年(1708年)には、「ヒノキ」「サワラ」「アスナロ」「コウヤマキ」翌年に「ネズコ」の五木を停止木として尾張藩の御用材以外の伐採が禁止され、「檜一本首一つ」と言い、盗伐、背伐などを犯した者は厳罰に処せられました。この5つの樹木を「木曾五木」と呼ぶようになりました。

こうした厳しい法度と取締りにもかかわらず、生活に困窮した住民の盗伐や背伐が後を断たず、加子母村でも、盗伐により処刑された者の慰霊のために立てられたという、二渡の佐見道の道端に祀られている首切り地蔵の話や、庄屋が出の小路でヒノキの大木を盗伐したのを奉行所への密告により処刑され、その処刑場所が、賽の神峠てまえ広野の首さらし場の跡と伝わる話など悲劇の逸話が、今日にもいくつか語り伝えられています。

木曾五木の葉



ヒノキ

サワラ

ネズコ

アスナロ

コウヤマキ

木曾の五木

ヒノキ「檜・桧」



ヒノキ：ヒノキ科 ヒノキ属
和名は火の木の意味で、古代にこの木を擦って火を得たことによる。高さ40mまでになる常緑高木の針葉樹。天然では、東北部から屋久島まで分布する。スギに次ぐ重要な植林樹種で、吉野(奈良県)、尾鷲(三重県)、土佐(高知県)とともに東濃(岐阜県)が人工林材の産地として有名。天然林材は木曾(長野県)のものが「木曾ヒノキ」といい超高級材として有名。

材質：材の色は、淡紅白色、肌ざわりは、滑らかで、独特のつやと香りがある。強度に優れ、狂いが少なく、耐久性はトップクラスで、軽く軟らかいので何にでも利用される。
用途：建築材(柱・土台・梁・桁・床・母屋・鴨居・敷居など)その他(建具・家具・風呂桶・工芸品・彫刻など)



樹皮(ヒノキ) 材(ヒノキ)

サワラ「榎」



サワラ：ヒノキ科 ヒノキ属
和名は材がヒノキに比べて「さわらか」(さっぱりの意味)による。高さ40mまでになる常緑高木の針葉樹。天然では岩手県以南の本州と九州に自生し、主に本州中部の山地に分布する。

材質：材の色は、帯黄淡褐色、ヒノキのような香氣、光沢はない。材はヒノキより軽軟で強度も低い。水湿には強い。
用途：建築造作材、建具、家具、桶、樽など。



樹皮(サワラ) 材(サワラ)

ヒノキ と サワラ の葉の裏



ヒノキ



サワラ

葉裏の白い筋(気孔という)が、ヒノキは[Y]、サワラは[X]に見える。

ネズコ(クロベ)「黒檜」



ネズコ：ヒノキ科 ヒノキ属
和名は材が鼠色であることによると思われる。高さ30mまでになる常緑高木の針葉樹。分布は本州、四国で本州中北部の中央山地と裏日本に多い。

材質：心材の色は灰褐色～黄褐色、材は軽軟。
用途：建築内装、建具、家具など。

別名、「クロベ」ともいい富山県の黒部溪谷に多いことからという。



樹皮(ネズコ) 材(ネズコ)

アスナロ「翌檜・白檜」



アスナロ：ヒノキ科 アスナロ属
和名は「明日ヒノキになるう」に由来すると俗に言われる。高さ30mまでになる常緑高木の針葉樹。本州、四国、九州に分布する。青森県の下北、津軽両半島に美林がある。石川県能登地方ではアテと呼ばれアテ林業として有名。木材方面では、ヒバと呼ぶことが多い。

材質：心材のは淡黄色・淡黄褐色で緻密、かつやや軽軟で、耐久性は極めて高い。
用途：建築では特に土台に使用され、その他、構造材、造作材、土木、建具・家具・船舶など、輪島塗の木地は、主にアテが用いられる。



樹皮(アスナロ) 材(アスナロ)

コウヤマキ「高野榎」



コウヤマキ：コウヤマキ科 コウヤマキ属
和名は、高野山に多いことによる。高さ35mまでになる常緑高木の針葉樹。福島・新潟県境と、木曾以南と四国、九州に分布する。

材質：材は淡黄褐色で、中庸またはやや軽軟、水湿に強い。
用途：建築造作材、浴室用材、桶類、器具その他。

その他：樹の姿が良いので庭木に好んで使用され、枝葉は、仏花にも用いられる。



樹皮(コウヤマキ) 材(コウヤマキ)